

皆さまへ代表理事からのメッセージ

一般社団法人 日本ベアドッグ協会
代表理事 馬上直子

🌸 早期警戒と追い払いによる、実効性あるクマ出没抑制モデルの構築へ

近年、クマの人里への出没が全国的に増加し、人身被害が深刻化しています。

要因分析が十分に行われないうまま駆除が中心となる状況は、生態系の不均衡や山地の脆弱化を招き、長期的には地域社会の安全を損なう可能性があります。

日本ベアドッグ協会は、科学的知見に基づく 早期警戒と非致命的追い払い を組み合わせた「出没抑制モデル」を構築し、地域の安全確保に資する実効性の高い対策を推進します。

私たちの目的は、理念的な共存ではなく、人の生活圏への接近を未然に防ぐための技術的・実務的な対策の実装です。

🌸 クマをテリトリー内に戻すという発想

ベアドッグの役割は、クマを傷つけることではなく、人里に迷入した個体を 本来のテリトリーへ誘導する ことにあります。

行動生態学に基づくこのアプローチは、人とクマの双方に過度な負荷を与えず、出没リスクを体系的に低減する方法として高い有効性が期待されています。

🌸 国内繁殖体制の確立が不可欠である理由

ベアドッグの安定供給は、出没抑制モデルの基盤となる重要な要素です。

そのため、協会はフィンランドから冷凍精子を輸入し、国内の若手獣医師と連携して繁殖体制の確立を進めています。

- 成犬輸入は高額な輸送費・検疫コストが発生し、安定供給が難しい。
- 国内環境・気候・運用条件に適応した“日本仕様のカレリア犬”を育成する必要がある。
- 国内獣医師による繁殖技術確立し、長期的に持続可能な供給体制を構築するため。

この体制は、国際的な遺伝資源を活用しつつ、国内での持続的な育成を可能にするものです。

フィンランド本国との技術連携により、最新の知見を常に国内へ導入できる仕組みを整えています。

🌸 協会の使命

日本ベアドッグ協会は、「地域の安全を守るための非致命的クマ対策の専門組織」として、行政・自治体・研究機関と連携しながら、実務的で再現性のある対策モデルを社会に提供します。

- 早期警戒体制の構築
- ベアドッグによる機動的追い払い
- 出没要因の分析と対策の体系化
- 国内繁殖体制の確立
- 技術協力ネットワークの整備

これらを総合的に進めることで、地域社会の安全を確保し、長期的な出没抑制モデルを全国へ展開していくことを目指します。

🌸 最後に

クマの出没は、地域の安全に直結する重大な課題です。

日本ベアドッグ協会は、感情論や理念論ではなく、科学的根拠に基づく実効性ある対策を、現場に届けることを使命としています。

地域の安全を守るために、そして、クマを本来のテリトリーへ戻すために、私たちは専門組織としての責任を果たしてまいります。